



七尾路を
駆け抜けたランナー
歓喜の瞬間



天候に恵まれた今大会。午前10時の号砲を皮切りに、フルマソン、親子ペア、10キロと種目別に6,400人を超えるランナーが順次スタートした。

親子ペアは、手を繋いで一緒にゴールするのがルール。遅れる親を「早く、早く」と笑顔で待つ子どもたち。また10キロは「一般・高校生が競い合い、スピード感あふれるレースを展開。目散にゴールを駆け抜けた。

そして長丁場、自分との闘いでもあるフルマソン。28キロ付近までは、大小11カ所の上り坂がある過酷なコース。後半は平坦で海が見渡せ、ランナーには走りやすい。レース中盤、軽快な走りから次第に体力が奪われ、歩くランナーが少しずつ出てくる。しかし、沿道からの応援を背に、歯を食いしばりながらゴールを目指すランナーたち。ゴール地点では家族や仲間からの大声援を受け、大きく両手を広げ笑顔でゴールした。ランナーもボランティアもサポーターも、約2万人が能登和倉万葉の里マソンを楽しみ盛り上げ、最高の大会となった。